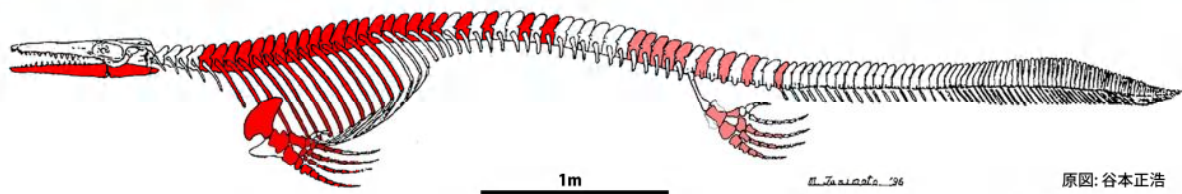


化石研究会第138回例会（大阪府岸和田市）のご案内



* 椎骨と肋骨については、厳密な意味での位置は確定していません。
暫定的におおよその位置を示しています。

網掛け部 2012年6月までに確認された部位

■ 2006年の調査時に得られた部位

■ 今回の発掘で得られた部位

和歌山県有田川町鳥屋城山で発見されたモササウルス類の産出部位図。

(谷本正浩氏の原図に加筆; 和歌山県立自然博物館, 2011).

今回は、特別講演会「恐竜時代を生き抜いたトカゲたち」と題し、トカゲやヘビをはじめとする有鱗目爬虫類の化石ならびに進化研究の最前線を紹介して頂きます。例会参加者は、きしわだ自然資料館の常設展と特別展の観覧もできます。多くの会員の参加をお待ちしております。なお、本例会は、きしわだ自然資料館の特別講演会を兼ねており、同館と和歌山県立自然博物館との共催で開催いたします。

■ 日時：2012年11月24日（土）13:00～17:30

■ 会場：岸和田市立公民館（岸和田市堺町1-1）・

岸和田市立きしわだ自然資料館（岸和田市堺町6-5 TEL: 072-423-8100）

※ 資料館 HP (<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>)

■ プログラム（敬称略）

13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明

13:10～13:50 講演1「丹波の恐竜時代のトカゲたち」

発表者 池田忠広

13:50～14:30 講演2「モササウルス発掘最前線」

発表者 小原正顕

14:30～14:45 休憩

14:45～15:05 コメント「どのモササウルスが深く潜れたのか」

発表者 山下 桃

15:05～15:45 講演3「トカゲ類の進化と適応」

発表者 疋田 努

15:45～16:10 講師対談・質疑応答

16:10～16:30 休憩・会場移動

16:30～17:30 きしわだ自然資料館見学（2011年11月より、常設展にモササウルスコーナー新設！）

18:30～ 懇親会（2ページ参照）

※ 翌日の11/25（日）にオプション巡検を開催します（3ページ参照）。

■ 講演要旨

講演1 「丹波の恐竜時代のトカゲたち」

発表者 池田忠広（兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立大学）

兵庫県篠山市・丹波市に分布する下部白亜系篠山層群からは、竜脚類を主とした恐竜化石とともに、多数の小型脊椎動物化石が産出している。これまでの調査の結果、これら小型脊椎動物化石には複数のトカゲ類と無尾類化石が含まれていることが明らかになっている。本講演ではこれら化石の中で、主としてトカゲ類化石に注目しその分類学的位置や多様性について紹介する。

講演2 「モササウルス発掘最前線」

発表者 小原正顕（和歌山県立自然博物館）

モササウルス類は、恐竜が陸上で繁栄していた白亜紀後期の海に生息していた爬虫類であり、その化石は世界の様々な地域から発見されている。国内でも40例近くの報告があるが、なかでも最近になって和歌山県の有田川町で発掘された化石は、日本一の保存部位数を誇ることが明らかとなり、注目を集めつつある。現在、この化石のクリーニング（化石のまわりにある余分な石を取り除く作業）が進行中であるが、本講演ではその最新情報を提供しつつ、最初の発見や発掘調査時のエピソードについても紹介したい。

コメント「どのモササウルスが深く潜れたのか」

発表者 山下 桃（東京学芸大学大学院修士2年）

モササウルス類は白亜紀の海の頂点にいた爬虫類である。そのモササウルス類の中でも、グループごとに潜水していた深さが違うことが骨や堆積環境の研究によりわかってきた。しかし、どのグループがより深い所で生活していたのかは、意見が分かれている。近年、動物の目の働きと生活環境が強く関係することがわかってきた。そこで、本講演では、頭蓋骨や、目の構造の中で化石として残る鞏膜輪を用いて、モササウルス類の3つのグループの目のf値（どのくらい暗いところで物が見えるのか）を推定し、比べて、どのグループがより深く潜水できたのかを考える。

講演3 「トカゲ類の進化と適応」

発表者 疋田 努（京都大学大学院理学研究科）

トカゲ類は約2億年前、三畳紀に出現した。昆虫や小型の無脊椎動物を食べる昆虫食の動物である。小動物を捕らえて食べるにはエネルギーを必要とするので、体は小さい。この生態的地位は、恐竜の出現以前からトカゲ類によって維持されていた。食性が変化した植物食のイグアナ類、肉食のオオトカゲ類は大型化している。四肢を失ったヘビ類とミミズトカゲ類、絶滅したモササウルス類はトカゲ類から進化したものである。舌の構造と獲物のとらえ方、毒などの進化について紹介する。

■ 懇親会について：

18時30分から、南海電鉄岸和田駅南口すぐの「木戸枡（くぐります）」2Fで開催いたします。

参加費は一般6000円、学生・院生3500円（いずれも予定）です。

参加を希望される方は、**11月9日（金）まで**に、きしわだ自然資料館の平田学芸員（連絡先は下記）あてに、メールかFAXでご連絡ください。

＜懇親会申込先＞ 「きしわだ自然資料館 平田慎一郎」までお願いします。

メールアドレス： yevgeni@mac.com FAX: 072-423-8101

※ メール等の標題に、「化石研究会懇親会申込み」と明記してください。

■ オプション巡検「和歌山県産モササウルス類骨格化石見学会」参加者募集について

2006年に和歌山県有田郡有田川町で発見されたモササウルス類の骨格化石は、産出現場での発掘がほぼ終了し、屋内でのクリーニング作業が続けられています。日本国内でもっとも多く部位が見つかったモササウルス類の化石を見学し、発見現場の露頭も訪ねます。

参加を希望される方は**11月16日(金)まで**に下記の申込先へご連絡下さい。

日時：11月25日(日)

行先：和歌山県有田川町モササウルス類クリーニング施設および和歌山県立自然博物館

移動手段：きしわだ自然友の会会員の車(4~5台)に分乗

案内者：小原正顕、渡辺克典

スケジュール：

9:00 きしわだ自然資料館出発

10:30 モササウルス類化石クリーニング現場到着(地元学校校舎内)・見学

昼食休憩(12:00~13:00)

13:00 クリーニング現場を出発、化石が発見された露頭へ移動。産出層などの見学。

14:00 見学第1陣終了 → JR紀勢線の駅に向かう車と県立自然博物館へ向かう車に分乗

15:00 和歌山県立自然博物館見学組(見学第2陣)のみ館内見学

16:30頃 解散

参加費：500円(燃料代)

<オプション巡検申込先> 「大阪府立三国丘高等学校定時制 渡辺 克典」までお願いします。

渡辺克典メールアドレス：watanabe-mi@mikunigaoka.osaka-c.ed.jp

FAX：072-233-6779 大阪府立三国丘高等学校定時制 気付 渡辺克典

※ メール等の標題に「化石研例会オプション巡検参加申し込み」と明記して下さい。

■ 運営委員会の開催について

下記の日程で、運営委員会を開催いたします。運営委員、事務局員など役員の皆様はご出席ください。

日時：11月24日(土) 午前10時30分から

会場：岸和田市立公民館 2F「講座室1」

■ 会場への交通アクセスについて・・・公共交通機関でのご来場を推奨いたします。

①南海本線 岸和田駅 **南口で下車し、徒歩で会場へお越しください。**

ア なんば(難波) 駅 から・・・急行・空港急行・区間急行で26分

特急(指定席は別料金必要) サザンまたはラピートβで22分

イ 関西空港 駅 から・・・空港急行で18分、

特急ラピートβ(全席指定席・要指定料金) 15分

②JR 阪和線 東岸和田駅

ア 天王寺 駅 から・・・快速・関空快速・紀州路快速・区間快速で30分

イ 大阪 駅 から・・・関空快速・紀州路快速で44分

ウ 関西空港 駅 から・・・関空快速で24分

※ 東岸和田駅から会場まで、徒歩で25~30分かかります。

岸和田駅行きの南海バスにご乗車のうえ、岸和田駅から徒歩でお越しください。

また、関西空港からお越しの場合は、南海電車の方がアクセス良好です。

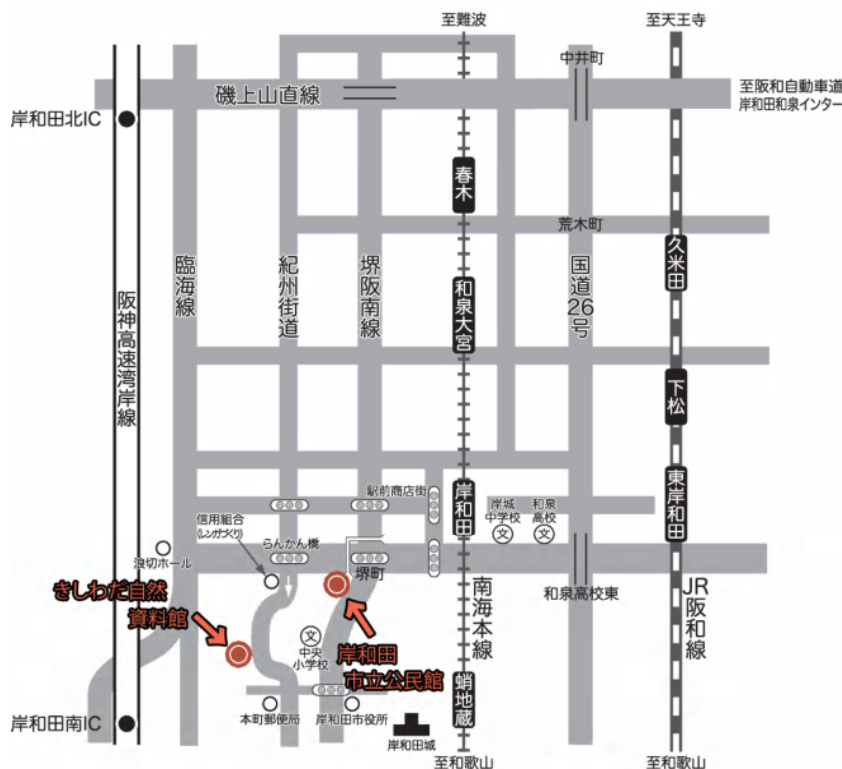
③自動車でお越しの場合

ア 阪神高速湾岸線

岸和田南インターから
インターを降りて300メートル北上し、「大北町」交差点（浪切ホール前交差点）を右折して1つ目の信号をさらに右折し、紀州街道へ入ってください。

イ 阪和自動車道

岸和田和泉インターから
インターで降りてから、府道40号（磯上山直線）を海側へ直進し、「木材町」交差点で臨海線へ入り南下して下さい。「大北町」交差点（浪切ホール前交差点）を左折して1つ目の信号をさらに右折し、紀州街道へ入ってください。



※ 会場となる公民館および自然資料館は駐車場が狭く、数台程度しか駐車できません。
もし自動車で来場され、駐車場が満杯の時は近隣の民間パーキングに駐車してください。

■ 宿泊のご案内（南海本線・岸和田駅周辺）

- ① アパホテル<関空岸和田>（岸和田市宮本町 3-19／岸和田駅中央口から徒歩 2分）
TEL: 072-433-7111
URL: http://www.apahotel.com/hotel/kansai/10_kannkuukishiwada/index.html
4,500円～
- ② ステーションホテルみやこ（岸和田市宮本町 17-20／岸和田駅南口から徒歩 1分）
TEL: 0120-200329 または 072-423-7772 FAX: 072-423-7773
URL: <http://www17.ocn.ne.jp/~h-miyako/index.html>
3,675円～
- ③ 岸和田シティ・ホテル プリンセス（岸和田市沼町 17-1／岸和田駅中央口から徒歩 4分）
TEL: 072-438-7810 FAX: 072-438-8983
URL: <http://www.kanku-city.or.jp/princess/>
4,980円

※ 南海本線岸和田駅周辺にはホテルが少なく、上記3軒程度です。
関西空港を利用される方は、関西空港駅や、りんくうタウン駅周辺に多くのホテルがありますので、その中から探す方法もあります。

（第138回例会世話人：渡辺克典・小原正顕・谷本正浩）

>>> 第30回総会・学術大会の報告 <<<

YOSAKOI ソーラン祭にフィナーレを迎えようとしていた札幌で、第30回総会・学術大会が開催されました。一日目(6/9)は、藻岩山麓にある同市中央図書館3F講堂でシンポジウム「北海道から生物進化の謎を解く - 日本を往来した動物たちの軌跡 -」を開催しました。このシンポジウムは「サイエンス・フォーラム in さっぽろ」の第14回でもあり、札幌市との共催で開催されたため、会員の他にも一般の方に多数参加していただきました。講演では、北海道にゆかりのある古脊椎動物研究者5名から北海道との縁が深い古脊椎動物に関する様々なトピック、フィールドでの調査風景、そして北海道とのつながりなどについて発表されました。また来日中だったIVPPの金昌柱博士からコメントをいただきました。シンポジウム終了後には、路面電車(札幌市電)を堪能しながら北海道庁近傍のホテルに場所を移し、懇親会を行いました。



(画像提供 北川博道)

二日目(6/10)の総会と一般講演の会場は、古沢仁会員が所属する札幌市博物館活動センターでした。午前のセッション後に開催された総会では、平成23年度の事業、会計とその監査について報告され、承認されました。そして滋賀県立琵琶湖博物館から群馬県立自然史博物館へ事務局を移転することも承認されました。ここでは、この日の参加を希望されていたものの体調不良で出席できなかった北川芳男会員からのメッセージを木村方一会員が伝えてくださいました。また、会場では、足寄動物化石博物館の澤村会員と新村会員により、化石体験ミニ発掘などの化石に関する普及教材のデモンストレーションが行われました。会員諸氏が挑



戦していました。一般講演後、一部の方は見学旅行(北海道自然誌博物館ネットワーク主催)に参加されました。翌朝集合だった「鮮新世の化石採集とアンモナイト博物館見学コース」の参加者は、夜の札幌でフィナーレを迎えたYOSAKOIソーラン祭りの余韻に浸りました。

今回の開催では、秋山雅彦会員、木村方一会員、そして古沢会員をはじめとする博物館活動センターなど多くの方々にお世話になりました。ここに記して感謝させていただきます。(事務局 高桑祐司)

>>> 第30回総会・学術大会巡検参加報告 <<<

「足寄動物化石博物館見学コース」

2012年6月10日(日)、11日(月)、化石研究会の第30回総会・学術大会の足寄動物化石博物館見学コースがおこなわれました。参加者は4名。足寄動物化石博物館の澤村寛さん、安藤達郎さん、新村龍也さんの案内で進められました。10日の一般講演の後に札幌を出発して足寄に移動し、11日は一日足寄動物化石博物館を見学しました。個々の活動も多かったのですが、いくつかの内容をご報告致します。

最初に足寄動物化石博物館で所蔵されているトドの液浸標本を見せていただきました。前鰭・後鰭を中心に観察しました。右の写真は後鰭の様子です。



博物館で販売されている「三世代」と呼ばれるものを紹介していただきました。中には化石が入っており、三色の火山灰を三段の層にし、固めたものでした(左下の写真)。これを使って中から自分で化石を掘り出す「ミニ発掘」体験を行なうことに人気があるそうです。今回の参加者が博物館・生涯学習施設の関係者だったこともあり、博物館活動・運営についての話題・意見を話す機会も多くありました。



また、足寄博物館で所蔵されているハクジラの頭の骨格標本を観察しました(右上写真)。足寄で見つかった化石の多くに独自の特徴があることを再認識する機会となりました。他にも展示室の見学や海生哺乳類の骨格標本の観察、写真撮影など、各々実りある見学でした。(名取和香子)

※ もう一つ行われた巡検「鮮新世の化石採集とアンモナイト博物館見学コース」については、次号で報告いたします。

>>> 間島信男のお薦め本の紹介 <<<

- ・お薦め度ランク（ランク付けは間島による）：★★・持っているも損はない。★★・標準。
★★★★・特にお薦め。（カッコ内の日付は発行日）

< 一般普及書 >

1) 『日本の恐竜図鑑』 宇都宮聡・川崎悟司 [著].

築地書館. 158p. (2012年2月) ¥2,200円+税.

宇都宮は恐竜やクビナガリュウの発見で名高い“化石ハンター”，川崎は近年人気の古生物イラストレーターで，単著で古生物図鑑の類を何冊も出版している。本書は日本産の恐竜および中生代の脊椎動物をまとめて紹介しており，近年研究の進展が著しい日本産脊椎動物化石の全体像を概観するのに適している。1種類について見開き2ページで川崎による復元画と宇都宮による解説が載っている。解説自体は簡単であるが，コラムや発見記が非常に充実しており，発見のいきさつなどが生き生きと伝えられている。これまでこういった本は研究者やサイエンスライターが書いたものが多かったが，本書はアマチュア化石ハンターの視線で書かれているところに意義がある。著者の人となりや活動実態がわかって興味深い。(★★)

2) 『ぞわぞわした生きものたち—古生代の巨大節足動物』 金子隆一 [著].

サイエンス・アイ新書. 230p. (2012年3月) ¥952円+税.

非常にマニアックなテーマに特化した普及書で，古生代の節足動物，それも巨大なものはどれかというところにこだわって紹介している。節足動物の定義，最古の節足動物に始まり，三葉虫，ウミサソリ，陸上鋏角類，多足類，六脚類と古生物図鑑に登場する大御所はすべて網羅している。著者は有名なサイエンスライターでこれまでも恐竜や古生物に関する著書を多数出版しているが，この著者の分岐分類学に対する理解と紹介の仕方にはかねてから問題を感じていた。本書でも分岐分類以前の伝統的な分類学をリンネ式分類学と呼び，分岐分類学と対峙させているが，前者は分類体系，後者は系統復元の方法であり，両者を対峙させることは不適當である。ともあれ三葉虫，ウミサソリ，石炭紀の巨大ゴキブリや巨大トンボなどについて詳しく知りたいという人にはお薦めである。大きくクレジットされてはいないが，2名のイラストレーターのうちの一人は，古生物関係のイラストで人気の山本聖士である。(★★)

(間島信男)

>>> 博物館の特別展・企画展等の開催情報 (2012秋~2013) <<<

- ・久慈琥珀博物館・・・福井県立恐竜博コラボミュージアム「恐竜展」/2012.9.16~11.25
- ・岩手県立博物館・・・科博コラボミュージアム「アロサウルスがやってきた」/2012.9.11~12.9
- ・南相馬市博物館・・・福井県立博物館特別展「ジュラシック相馬」/2012.10.13~12.24
- ・千葉県立中央博物館・・・特別展「ティラノサウルス 肉食恐竜の世界」/2012.10.20~12.24
- ・福井県立恐竜博物館・・・「カマラサウルスを見に行こう！」/2012.11.2~2013.1月下旬
- ・大阪市立自然史博物館・・・特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」/2012.11.23~2013.6.2
- ・北九州市立いのちのたび博物館・・・特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ」/2012.10.20~12.2

>>> 事務局だより <<<

■ 新入会員

- ・谷本正浩（三重県名張市）
- ・北田 稔（三重県伊賀市）
- ・木村敏之（群馬県立自然史博物館）

■ 2012年度会費の納入をお願いいたします

年会費 4000円（学生2500円）

郵便振替 00100-7-633288 化石研究会

※ 事務局移転に伴い、郵便振替の番号も新しくなりました。ご注意ください。

※ 納入状況については、封筒の宛名ラベルでご確認ください。

2012年度会費が未納のニュース郵送会員の方には、振替用紙を同封しております。

3年間、会費未納の会員は、除籍となります。

■ 事務局移転のお知らせ

事務局が群馬県立自然史博物館に移転し、先日の会誌第45巻1号発送、そしてこのニュース115号の作成・発送を新事務局が行いました。微力ながら本会の発展に努めたいと考えております。

なお高橋啓一会員には、8年にわたって事務局長を、小西省吾会員、阿部勇治会員には、それぞれ会計と監査を引き受けて頂きました。また事務局業務を担当していただいた会員の皆様にもお世話になりました。どうもありがとうございました。

■ ホームページ移転のお知らせ

国立情報学研究所によるホームページ構築・提供支援が終了したため、化石研究会のホームページを下記アドレスに移しました。

<http://www.geocities.jp/tepkun/>

ホームページ移転にあたっては、神谷英利、吉田亜希菜の両会員にご尽力頂くと共に、今後も管理をお願いすることになりました。皆様の活用と情報提供をよろしくお願い申し上げます。

編集・発行：化石研究会事務局 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1

群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/tepkun/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名 称 化石研究会 (カセキケンキュウカイ)

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のホームページでも見るすることができます。前号までのニュースも見られます。現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。